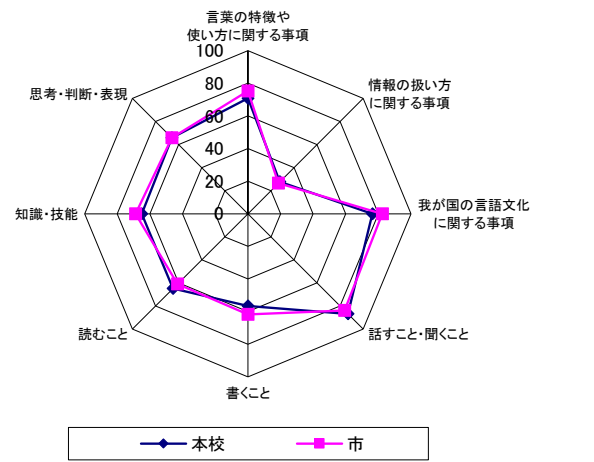


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	70.8	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	27.6	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.3	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	86.8	83.9	84.2
	書くこと	56.6	61.7	64.5
	読むこと	64.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	65.0	68.8	70.3
	思考・判断・表現	66.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

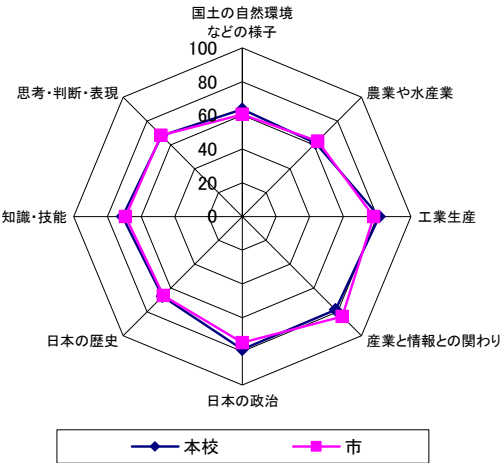
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると4.5ポイント下回っている。 ●第5学年に配当されている漢字を書く問題では、熟語で記述する問題の正答率が市の平均正答率よりも14.3ポイント以上低かった。 ○送り仮名をつけて書く問題では、市の平均正答率より9.2ポイント高く、単音としては理解できているものも多いと思われる。	・漢字の学習の際は、ドリル等も活用して熟語も理解できるように指導していく。 ・授業中、ノートに記述する際には、既習漢字を使用するように指導していく。また、日々の生活の中でも文章を書く際には、できるだけ漢字を使用するように家庭と連携し指導する。
情報の扱い方 に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、1.1ポイント高くなっている。 ○無解答の児童が少なく、資料をしっかりと検討しようという意欲が見られる。 ●市の平均正答率に比べると高いものの、正答率自体は30%に満たず高いとは言えない。指定された内容を漏れなく取り入れてまとめることには課題が見られる。	・国語以外の教科においても、資料を扱い、段落の構成やつながりを整理しながら、読む学習を継続していく。また、今後も情報をまとめることに抵抗感をもつことがないように、取り出した情報をまとめる活動を適宜行うとともに、まとめた内容が的確であったかについて交流・検討ができるよう対話的な授業を進めていく。
我が国の言語文化 に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、6.1ポイント低くなっている。 ●外来語・和語・漢語を見分ける問題の正答率は76.3%であった。選択式問題であることも鑑みると、言葉の成り立ちを理解していない児童が多いと推察される。	・日常的に国語辞典や漢字辞典に親しむ学習を継続していく。さらに、ドリルを活用したり、教科書でふりかえったりしながら、「和語」「漢語」「外来語」「複合語」「熟語」などの我が国の言語文化に関する事項にふれる機会を多くし、語句の読みや由来に関心をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ○話し手の意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は89.5%であり、市の平均平均正答率よりも10.6ポイント高い。	・今後も、国語の授業に限らず、日頃から自分の考えと比較しながら相手の話を聞く習慣を身に付けられるよう指導していく。また、考えたことをまとめて自分の言葉で表す場を増やしていく。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると5.1ポイント下回っている。 ●報告文の書き出しの工夫を見付ける問題に正答率は76.3%で市の平均正答率よりも3.8ポイント高かった。一方、指定された長さや構成で文章を書くことは、市の平均正答率よりも10ポイント以上低く、課題が見られる。	・授業の中で、伝えたいことを端的に書き表すだけではなく、相手の立場で考え、他の意見をもとに説得力のある文章を書く経験を積ませる。国語で学んだことを他教科でも活かしていくことで、書く力の向上を図る。 ・問題文の題意を的確に捉えられるように、問題文の大切な部分に線を引いたり囲んだりしながら、問題文の題意を的確に捉える方法を指導していく。
読むこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると4ポイント高くなっている。 ○登場人物の心情を捉えることは、92.1%とよくできており、市の平均正答率よりも10.9ポイント高い。一方叙述を基に登場人物の行動を捉える問題は、8.2ポイント低く、叙述に立ち返って確認しながら読んでいくことには課題が見られた。	・学校図書館の活用や読書時間の確保をし、物語文・説明文ともに読む機会を確保していく。また、読んだ本の内容を叙述を基に交流する場を設け、感覚的に捉えるだけではなく、叙述の効果にも目が向けられるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.6	60.5	65.8
	農業や水産業	61.5	63.3	66.0
	工業生産	81.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	78.2	83.8	76.6
	日本の政治	78.8	74.9	74.1
	日本の歴史	67.0	66.3	68.3
観点別	知識・技能	71.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	67.8	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

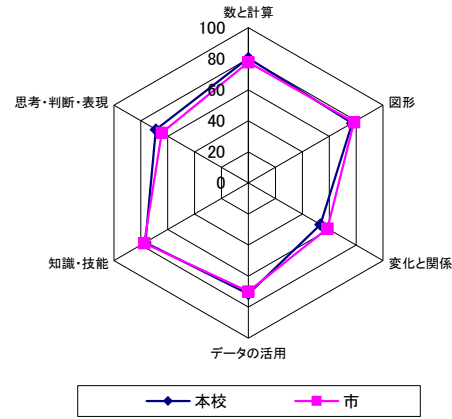
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市と比較すると3.1ポイント高い。 ○公害についての問題の正答率は、35.9%と市より9.8ポイント高い。 ●国土の構成について地図をもとに考え、表現する問題の正答率は、61.5%と市より2.5ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の国土に関する問題は、市の平均を上回ったものの記述形式の問題は、正答率が低い。単元ごとの社会科用語をおさえたり、キーワードを用いて自分の考えをまとめたりすることで自身の考えを表現する力が伸びるように支援していく。
農業や水産業	平均正答率は、市と比較すると1.8ポイント低い。 ○輸入などの外国との関わりにおける課題を資料から読み取る問題の正答率は、69.2%と2.0ポイント高い。 ●米の品質を高める工夫について選択する問題の正答率は、79.5%と市より6.9ポイント低い。	・品種改良についての知識が十分身に付いていなかったことから、日本の食糧生産の社会科用語と写真等を関連付けながら、基本的な内容の理解を図る。
工業生産	平均正答率は、市と比較すると3.3ポイント高い。 ○日本の主な輸出品・輸入品について選択する問題の正答率は、61.5%と市より6.0ポイント高い。	・生活経験と学習内容を結び付けたり、イラストや写真等の視覚資料を活用したりして、自ら課題を持ち、調べる学習を取り入れながら学習内容の定着を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市と比較すると5.6ポイント低い。 ●情報の発信と受信の注意点について選択する問題の正答率は、82.1%と市より10.8ポイント低い。	・情報モラル教育など他教科との関連も図りながら学習への理解が深まるよう単元構成を工夫し、指導計画を立てていく。
日本の政治	平均正答率は、市と比較すると3.9ポイント高い。 ○議会政治について資料をもとに考え、記述する問題の正答率は、61.5%と市より8.5ポイント高い。	・今後も、図や表から分かることを整理したり、キーワードを用いて自分の考えをまとめたりする学習を取り入れることで、自身の考えを表現する力が伸びるように支援していく。
日本の歴史	平均正答率は、市と比較すると0.7ポイント高い。 ○豊臣秀吉の業績について選択する問題の正答率は、74.4%と市より6.8ポイント高い。 ●鎖国についての問題の正答率は、71.8%と市より9.5ポイント低い。	・社会科に関する用語を適切に使って表現することが不十分であった。指導の中で、社会に関する用語を適切に理解させるとともに、意図した内容や根拠を的確に説明できるよう話し合いの機会を多く持たせる。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.4	77.7	78.6
	図形	77.1	78.4	74.4
	変化と関係	53.5	58.7	53.0
	データの活用	71.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	76.7	77.5	74.0
	思考・判断・表現	68.8	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

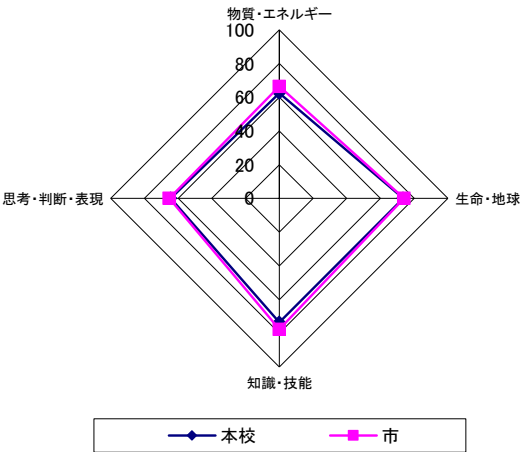
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均得点は、80.4%であり、市よりも2.7ポイント高かった。 ○小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえる問題、図を使って小数の乗法の文章問題に合った式を立式する問題の正答率は、それぞれ89.5%以上であり、小数の計算は市の平均よりも約5ポイント高かった。 ●異分母分数の減法の計算は、市の平均よりも7.1ポイント低かった。	・文章問題から、数直線を使って立式することは多くの児童ができています。普段の授業から立式の過程において、数直線を用いて指導したことや、問題を解くときに数直線を書くように繰り返し指導したことの成果と考えられる。今後も継続して指導していきたい。 ・分数のたし算・ひき算では、通分が十分にできていないことが考えられる。分母の最小公倍数の見つけ方について確認し、より正確に計算できるように指導していきたい。
図形	領域の平均得点は、77.1%であり、市よりも1.3ポイント低かった。 ○ひし形の面積の公式を答える問題の正答率は、81.6%であり、市の平均を5.8ポイント高かった。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題の正答率は、52.6%であり、市の平均よりも12.2ポイント低かった。	・ひし形の面積の公式を使い、問題を解くことができた児童は多かった。ひし形の面積を求めるために、いくつかの三角形に分けて求積したことや、繰り返し、いろいろな形の図形の面積を求めてきたことの成果と思われる。今後も、公式を活用して三角形や四角形の面積を求められるように継続して指導していきたい。 ・外角の求め方について理解が十分でなかったため、三角形の内角の和を確認し、再度指導を行いたい。
変化と関係	領域の平均得点は、53.5%であり、市よりも5.2ポイント低かった。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の正答率は、44.7ポイントであり、市よりも9.6ポイント低かった。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題の正答率は57.9%であり、市よりも9.0ポイント低かった。	・速さを秒速、分速、時速にそれぞれ変換することに課題が見られた。速さを比べて、秒速や分速、時速にそろえる活動をより多く取り入れたい。また、mやkmなどの長さの変換にも着目し、適切に速さを比べられるように指導したい。 ・解答内容から推察すると、割引される値段と割引後の値段の区別ができていなかった。今後は、割引の値段を求めるために、実生活にある割引や割増しを計算する経験を積み重ねていきたい。
データの活用	領域の平均得点は、71.5%であり、市よりも1.6ポイント高かった。 ○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題の正答率は、94.7%であり、市よりも23.8ポイント高かった。 ●平均から全体の量を推測する問題の正答率は、34.2%であり、市よりも16.3ポイント低かった。	・また、基準量と比較量が何かをとらえ、適切に割合を導き出す。 ・データの見方では、教材を工夫し、最頻値や中央値を求めるために児童の興味を引く課題設定をしたり、互いが学び合う活動設定をしたりしたことにより、データから代表値を適切に読み取ることができたと考えられる。今後も、児童が主体的に学ぶ環境を整え、指導していきたい。 ・平均と個数から全体の量を推測し求めることに課題が見られた。今後は平均は、全体の合計と個数をもとに算出していることをたしかめ、公式を活用し、平均から個数や合計を求めることができるように指導したい。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.5	66.5	66.3
	生命・地球	73.5	74.0	72.6
観点別	知識・技能	73.5	77.6	78.2
	思考・判断・表現	64.4	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域別の正答率は62.5%で市の平均を4ポイント下回った。 ○2(1)ふりこのきまりから、ふりこの周期がふりこの長さによってのみ決まることを説明する問題では、市の平均を3.0ポイント上回っている。結果の考察を的確な言葉で要約する力がついてきていると考えられる。 ○3(3)ミョウバンが水に溶ける量について、グラフから読み取る問題では、市の平均を0.9ポイント上回っている。水量や温度の違いを把握して物質の性質を理解していることが分かる。 ○5(1)物の燃え方の実験結果について検討し、改善を図る問題では、市の平均を11.2ポイント上回っている。物が燃焼するためには空気が必要であり、線香の煙が空気の流れを確認するために有効であることが理解できていた。 ●4(1)電流のはたらきでは問題文を読んで「コイル」の説明であることに気づいた児童は41%で市の平均を15.2ポイント下回った。制作や操作、現象にのみ意識が傾き、用具名の認識が薄れたことが推測できる。 ●4(3)電磁石のはたらきが電流の大きさや導線の巻き数によることを理解しおもちゃの車の走る距離を推測する問題では、正答率が59%で市の平均を10.8ポイント下回った。並列つなぎと直列つなぎの違いを理解できていないことが原因と考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ○単元の初めに使用する実験器具の名称や特性を指導し、正しく安全に使用できるように継続的に指導する。 ・用語をキーワードやポイントという言葉で児童に提示物やICT機器で示すとともに、意味を理解させるために、児童に対しスケッチや図などを活用してノートを作成することを推奨し、理解を深めることができるようにしていく。
生命・地球	領域の平均正答率は73.5%で市の平均を0.5ポイント下回った。 ○1(3)天気の変化での台風が上陸しやすい時期をもとに、ダム水位を減らす時期を推測する問題において、平均正答率が76.9%で市の平均を16.2ポイント上回った。学区の境に一級河川があることもあり、水位の変化に対する意識は高いと考えられる。 ○6動物のからだのつくりとはたらきでは全ての内容について市の正答率を上回った。本校児童は、自然豊かな地域で生活しており、生き物への興味関心が高く、理解が深まったと考えられる。 ●1(3)②天気の変化ではダムの水位が降水によってまかなわれることを理解している児童が74.4%で市の平均を4.5ポイント下回った。水の循環に関する知識が十分に定着していないことが伺える。 ●7(3)植物のつくりとはたらきでは葉のはたらきについて、実験から対照実験の目的を指摘できた児童は61.5%で市の平均を3.7ポイント下回った。提示された2つのイラストの違いを、条件統一という視点で捉え、表現することができていなかったと考えられる。	・領域の特性上、地球についての学習などでは、手元の教材と実際の現象とを丁寧に結びつけるために、ICT機器を活用し、指導を進めていく。 ・生物系の単元では、身近に試せるものもあることから、日頃から興味関心がもてるように、学習以外の環境整備等も含めて生命にかかわる機会を設けることが必要であると考え。

宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が言葉の力を伸ばす工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりして、学習に取り組むことができるようにする。	「学校の授業がどの程度分かりますか」に対する肯定的割合は、質問項目がある4学年のうち、3つの学年で93%を超えている。また、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に対する肯定的割合は、全学年で95%を超えている。 発達段階に応じてICT機器の活用を積極的に行い、「パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる」に対する肯定的割合は、質問項目のある4学年全てにおいて93%を超えており、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」に対する肯定的割合も、中学年では市の肯定的割合を11.7ポイント上回り、高学年でも市の肯定的割合を上回っていた。自己表現の方法が増えたことが、「勉強していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」に対する肯定的割合が全学年95%以上という高い割合につながったと思われる。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、活用できるようにするとともに、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い定着を図る。 また、話合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。	国語科の物語や説明文の内容を読み取る問題では、登場人物の心情について描写を基にしたり、叙述を基にしたりして、文章を的確に捉えることができおり、市平均正答率を上回っていた。 算数科の小数や分数の計算では、市平均正答率を上回り、数量や計算方法の理解の定着が見られた。また、平均・データの見方は、市平均正答率を大きく上回った。データを正しく理解し、資料から読み取ったことを活用できていた。 「話合いに自分から進んで参加している」に対する肯定的割合は、5つの学年で市の肯定的割合を上回り、「自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」に対する肯定的割合は、質問項目がある3学年全てにおいて市の肯定的割合を上回っていた。高学年では、「物事をいろいろな視点や立場から考えている」に対する肯定的割合が、市の肯定的割合を上回っており、課題解決に向かい友達と協働的な学習に取り組んだ。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市における教科に関する調査から、多くの学年で、複数の資料の中から必要な資料を選んで読み取る問題、指定されたテーマや条件で文章を書く問題、各教科の用語を理解し適切に使い自分の考えを記述する問題に各教科共通の課題が見られた。今後は更に言葉の特徴やきまり、教科の重要語句に重点を置いた指導を行い、教科横断的に読み取る力・言葉を活用する力を育てる。

国語辞典や漢字辞典、ICT機器などを活用し、言葉の意味を理解しながら読む活動を取り入れることにより、語彙の量を増やすとともに、重要語句を使った文章を書く活動を取り入れ、言葉の使い方理解させ各教科の見方・考え方に応じた言語力の質の向上を図る。

「授業への取り組み」や「学習に対する気持ちや態度」についての質問に対する肯定的割合が市の平均と比べて高いものが多い。各教科において課題設定を工夫することにより学習に対する意欲を高めながら、ICTの積極的な活用を図り、分かる授業の展開に努める。また、今後も学習活動における学び合いを重視し、教師が児童の思考過程をや根拠を導き出し、論理的な話し合いをする機会を多く設け、児童同士がお互いに意見の意図を理解できるような言語活動を取り入れ、学力の向上を図る。